

フラッグシップ輸出産地への支援に関する7つの提言

今後、我が国農林水産物等の一層の輸出拡大を図っていくためには、現地プロモーション等の販売促進活動と併せて、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出を行う輸出産地の育成が重要である。

これまでの国の輸出産地育成に向けた施策をみると、必要な施策メニューは用意されているものの、輸出に取り組む産地を一律にとらえたものとなっており、今後は、産地の成長段階に応じたメリハリのある支援を行っていくことが必要である。

今般、特にフラッグシップ輸出産地への支援について、各委員の意見を集約し7つの提言として取りまとめたので、農林水産省における今後の輸出産地施策に反映されることを期待する。

また、新たに輸出に取り組む産地の掘り起こし、課題解決に向けた伴走支援などを通じた輸出産地のすそ野拡大についても、引き続き積極的に取り組んでいくことが重要であり、バランスのとれた支援となるよう留意されたい。

最後に、今後、フラッグシップ輸出産地の選定が進んでいく中で、実際に大規模に輸出に取り組む産地の意見を聴取しながら、引き続き現場目線で施策の充実・強化を図っていくことを期待する。

1 輸出向け生産基盤を確保する

担い手が減少する中、フラッグシップ輸出産地が輸出の維持・拡大を図っていくためには、生産基盤の強化が不可欠であり、輸出向けの施設・機械の整備や生産性の高い農業経営の実現のための大規模な基盤整備等を促進する必要がある。

併せて、輸出先国の規制・ニーズに対応した認証取得を推進する必要がある。

2 サプライチェーンを確保する

国内物流の2024年問題や海外でのコールドチェーン、加工処理体制等の課題がある中で、輸出入商社、生産者、国内外の流通業者や加工・販売事業者等との連携を強化し、産地から海外の販売事業者をつなぐ効率的なサプライチェーンづくりを進めていく必要がある。この際、産地と海外の販売先が一体となって出口戦略を確立していくための支援を強化する必要がある。

3 輸出関連技術を開発・普及する

今後フラッグシップ輸出産地が持続的に輸出向けの生産を維持・拡大していくことができるよう、省力化生産技術、輸送中のロス率の低減技術、賞味期限の延長技術、EU等の規制に対応した包装資材などについて、産地と研究機関とが共同した新技術開発を進めるとともに、産地における大規模実証等を支援しながらその現場実装を促進する必要がある。

4 サステナビリティに対応する

SDGsの取組やESG課題への対応が世界的に進んでいるところ、サステナビリティに対応した商品のニーズが高まっているため、みどり関連施策と緊密に連携しつつ、地方公共団体等を巻き込みながら、地域に合った形でカーボンニュートラルや有機・減農薬栽培、アニマルウェルフェア等、環境に配慮した生産の拡大を促進していく必要がある。

5 輸出人材を育成・確保する

輸出向けの生産の一層の拡大を図っていくためには、担い手となる生産者自身が、作物を生産するスキルとは異なる輸出ビジネスを遂行するためのスキルを習得していくことが重要であり、そのための人材育成の仕組みづくりを行う必要がある。

また、肉のカッティング技術者の育成など輸出国の求めるスペックに応じた商品に加工するための技術者の育成やこうした技術・ノウハウの普及・伝承についても推進する必要がある。

更に、輸出の推進体制を構築する際のとりまとめ役、新たな商流を切り拓くリーダー的人材等の不足が輸出拡大のボトルネックとなってい

ることから、商社など企業で働く人材を農村地域に呼び込むなど外部人材の活用も含めた人材確保の仕組みを構築する必要がある。併せて生産・出荷に係る労働力不足への対応も進める必要がある。

6 輸出に係る有用な情報を共有する

GFP コミュニティ等を活用し、これまで先駆的に輸出に取り組んできたフラッグシップ輸出産地との意見交換や産地間の交流等を進めるとともに、輸出に関する成功・失敗事例等の経験や情報を収集して共有する必要がある。

7 海外に対して産地情報を発信する

生産者の輸出拡大に向けたモチベーションを向上するため、フラッグシップ輸出産地と現地レストラン等が連携したプロモーションの実施など、輸出に取り組む生産者自身が、現地でプロモーションを行うことにより、直接フィードバック等を得ることができるような機会の創出に努める必要がある。

また、作り手の思いを直接海外の方々に伝えるための、産地動画の作成や、フラッグシップ産地であることを示すラベル・ロゴマーク等の作成などを通じ産地からの情報発信を進める必要がある。

以 上

フラッグシップ輸出産地の理念

～ Place the flag seen from the world （世界へ向けて旗を立てる）～

海外で日本産の農林水産物を求めている人がいる

それはなぜか？

おいしいから、健康的だから、新鮮だから、安全だから、
美しいから、多種多様だから、等々
きっとそういうところに魅力を感じている

それを作っているのは誰か？

日本にはクラフトマンシップあふれる生産者がたくさんいる
古来から四季や風土に根ざし、愛情込めて丁寧に
海外の人に食べてもらいたいと思って作っている

そういう人たちを海外の人に紹介したい
産地もそれを望んでいる

そういった思いを胸に仲間たちと輸出に取り組む旗手となる産地、
それがフラッグシップ輸出産地